

【はじめに】

徳島県は年内播種で春夏にんじんでは全国第1位の産地である。しかし、1月中旬～2月播種のニンジンのミニパイプハウス初夏どり栽培はあまり行われていない。また、11月～1月播種のカブのミニパイプハウス栽培ではべたがけの使用が推奨されている。

そこで、本試験は徳島県での1月中旬～2月以降の播種作型の確立を目的として、発芽・生育促進のためにミニパイプハウス内でのべたがけ被覆の効果について検討した。

【試験方法】

ニンジンの品種は「紅ひなた」、べたがけ資材としての不織布はパオパオ90Rを播種から1カ月程度使用した。播種時期は12月15日（12月区）、1月13日（1月区）、2月16日（2月区）播種として、図1に示すとおり、それぞれの半分に不織布をかけて比較を行った。

生育、収量については1週間毎に全長、重量等について調査した。



図1 試験の様子（2015年1月13日撮影）

【試験結果】

収量調査の結果、12月区、1月区、2月区全てで不織布有りでニンジンの本数が多く、収量増に効果的であった（図2）。1月区の収穫適期と考えられる6月10日では、不織布有では平均重量が224g/本、不織布無では186g/本であった。収穫本数が多くなったことから、不織布により、温湿度共に保たれて発芽率の向上に効果があったと考えられる。

これらのことから、本県のニンジンでも厳寒期に播種する場合には不織布等のべたがけ資材を使用するのは効果的であったといえる。なお、本試験では病害虫に冒されているものや規格外品については除いている。

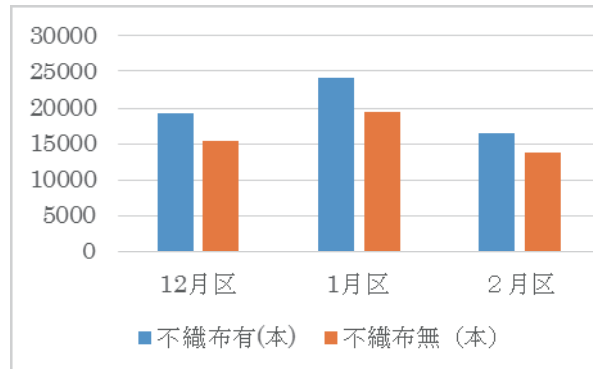


図2 不織布の被覆が収穫本数に及ぼす影響
注) 数値は10a当たり換算本数

【おわりに】

収穫時期となった5月～7月はトンネル内気温が高く、軟腐病が発生しやすい環境であったため、病害に悩まされた。今後の対策として、換気を多くする、排水をよくする等軟腐病対策を検討する必要があると考えられた。

（平成27年度卒業生 生産技術コース 竹田 翔志）

第6号 目次

- 1頁 イチゴ新品種「阿波ほうべに」の育成
- 2頁 赤いウメ「露茜」の早期成園化技術の確立
- 3頁 徳島すぎとMDFを用いた水平構面の開発
- 4頁 「阿波とん豚」の美味しさの解明に向けて
- 5頁 ウスパオノリ養殖の試み
- 6頁 地域農産物資源「ゴウシュイモ」の生産の現状と課題
- 7頁 石井小学校の食育学習活動支援
- 8頁 ニンジンのミニパイプハウス初夏どり栽培におけるべたがけ被覆

徳島県立農林水産総合技術支援センターニュース 第6号

平成29年(2017年)2月

編集・発行 徳島県立農林水産総合技術支援センター
〒779-3233 徳島県名西郡石井町石井字石井1660

TEL (088) 674-1660

FAX (088) 674-3114

<http://www.pref.tokushima.jp/tafftsc/>